Readout
HORIBA Technical Reports

特集　医用計測システム　April 1998 ■ No.16

ポイント・オブ・ケア・テスティングを目指して

国房俊彦
Toshihiko KUNIFUSA

(Pages 3)

株式会社 堀場製作所

Foreword
巻頭言

ポイント・オブ・ケア・テスティングを目指して

Point of Care Testing

国房 俊彦
Toshihiko KUNIFUSA
医用システム統括部
統括部長

1997年12月に地球温暖化防止京都会議(COP3)が開催され，人類を含めた全ての生物を取り巻く環境保全のために，様々な取組みが地球レベルで展開されています。目指すところは，今生きている私たちはもちろん，子々孫々に至るまで，みんなが健康で楽しく暮らすことができる環境を維持し，伝えることでしょう。

当社は1997年6月に環境に関する国際標準規格ISO-14001を取得しましたが，環境理念として「地球環境保全を最重要課題とし自然との調和をめざして技術の極限に挑む」を掲げて，すべての企業活動を進めております。その一つが，エンジン排ガス計測システム」や「大気・水質分析機器」など各種の環境計測関連製品の提供を通して地球環境の保護・改善に貢献することであり，もう一つが，医用計測関連製品による健康の維持，増進に寄与することです。

当社の医療分野との係わりの歴史は古く，1945年の創業以来の主力製品であるpH計を始めとし，約30年前には肺機能ガス分析計(CO_2計)を，1980年から90年にかけては血液電解質分析計と免疫測定装置が，さらに，現在は血球カウンタを本格的に開発・販売してきております。とくに，1997年6月にはフランスの血球カウンタメーカABX社がホリバグループの一員に加わり，血液検査分野での事業活動をグローバルな規模で展開しております。

現在，日本国内の医療を取り巻く財政・経営環境は厳しく，とくに医療費が1995年27兆円，昨年度は29兆円とますます拡大しており，政府による医療費抑制策が取られていることは皆様ご承知の通りです。このような環境下，医療用検査機器メーカの役割は，単に検査機器自体のコスト低減だけに着目するのではなく，患者・医師・検査・処置(手術・投薬)のループの中で，検査そのものの質，例えば，検査の有効性，検査時間の速さ，機器の現場での取扱い易さ，さらに最も重要な検査データの信頼性など，より質の高い検査機器の提供を通して真に医療分野で貢献していく事が重要と考えております。

当社は，この考え方に沿って，白血球分類，網赤血球計数など高度のテクノロジーを駆使したいわゆるハイエンド機器から，極めて操作性に優れた一般診療所向けのローエンド機器まで各種の血球カウンタを幅広く製品化しております。また，近年，医療現場からご要望の高い感染症マーカ(CRP)を測定する機能を付加した自動血球計数・CRP測定装置を世界で初めて製品化しました。さらに今後は，糖尿病などの生活習慣病や，骨粗鬆症に代表される老人病の予防・治療にお役に立てる検査機器の開発にも注力してまいります。

必要とする時に，必要な項目だけを，簡単にすばやく，なおかつ，コストパフォーマンスの高い検査機器と専用試薬をより患者に近い医療現場へ提供すること。『ポイント・オブ・ケア・テスティング(POCt)』これが今後の我々検査機器メーカのキーワードであると認識しております。